

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（7年1月判断）	今回（7年4月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡

(注) 7年4月判断は、前回7年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、百貨店・スーパー販売が緩やかに回復しつつあるほか、ドラッグストア販売が拡大していることなどから、全体では緩やかに回復しつつある。生産活動は、化学が緩やかに回復しているものの、電子部品・デバイスや生産用機械等が弱含んでいることなどから、全体では持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（7年1月判断）	今回（7年4月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡
生産活動	持ち直しに向けた動きに一服感がみられる	持ち直しに向けた動きに一服感がみられる	➡
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡
設備投資	6年度は増加見込みとなっている	6年度は増加見込みとなっている	➡
企業収益	6年度は増益見込みとなっている	6年度は増益見込みとなっている	➡
住宅建設	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	➡

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな持ち直しが続くことが期待される。ただし、物価上昇やアメリカの政策動向、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、百貨店では大雪により客数が減少したことなどから衣料品の動きが鈍いものの、スーパーでは飲食料品に動きがみられることから、全体では緩やかに回復しつつある。コンビニエンスストア販売は、飲料等に動きがみられることから、堅調となっている。ドラッグストア販売は、飲食料品等に動きがみられるほか、新規出店効果もあり、拡大している。ホームセンター販売は、DIY用品や日用品の動きが鈍いことなどから、弱含んでいる。家電大型専門店販売は、白物家電の動きが鈍いことから、持ち直しの動きに一服感がみられる。新車販売は、緩やかに持ち直しつつある。主要観光地の入込客数及び主要温泉地の宿泊客数は前年を上回っている。旅行取扱状況は、海外旅行は厳しい状況にあるものの、国内旅行は持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 1月は好天が続き、春物衣料に動きがあったものの、2月は大雪により客足が鈍くなり苦戦した。足下では催事が好調に推移し、来店客数も増えている。(百貨店)
- 物価高により、衣料品への節約志向は感じるが、食料品は生活必需品ということもあり、買い控えはみられない。4月以降、値上がりする商品が増えるため、消費者がより安さを求めてドラッグストアなどに流れないか懸念している。(スーパー)
- 昨年は地震の影響で観光客が減少していたが、今年は国内客、インバウンドとも増加しており、駅周辺や繁華街の店舗の売上げが伸びている。1、2月は気温が低かったことから、ホット飲料が良く売れた。(コンビニエンスストア)
- 飲食料品の中でも特に生鮮食品の価格を抑えて販売していることが集客に繋がっている。例年よりも気温が低く、ハンドクリームやリップケア商品が良く売れた。3月に入り気温が上昇して以降、花粉症薬が動き出している。(ドラッグストア)
- 大雪により除雪用品に動きがみられたものの、客数が減少したほか、被災家屋の修復用工具等に落ち着きがみされることなどから売上げは伸び悩んだ。(ホームセンター)
- 昨年あった省エネ家電の購入補助金や被災による買い替え需要がなく、冷蔵庫など白物家電の売れ行きが悪かったほか、寒波や大雪により客足も鈍かった。(家電大型専門店)
- 認証不正問題の解消や法規制対応の完了により、受注の再開が進んでおり、前年を大幅に上回っている。物価高に伴う買い控えや、安価なモデルへのシフトはみられていない。(自動車販売店)
- 宿泊料金が上昇したことで地元客は減少しているが、新幹線延伸効果で関東客が大幅に増加しており、売上げも伸びている。(福井：温泉地)
- 地震から1年が経ち、徐々に客数が戻ってきてている。寒波や大雪により一時客足が鈍くなったものの、気温の上昇とともに、来場者は増えている。(能登：観光地)
- 国内旅行は、九州や沖縄、大型テーマパークなどが人気でコロナ前に近い水準まで戻ってきている。海外旅行は、近場の台湾や韓国などに動きがみられるものの、円安等により厳しい状況が続いている。(旅行代理店)
- 物価高が続いているが、外食や宴会需要は堅調に推移している。駅前や観光地周辺の店舗ではインバウンド需要により動きが良い。(飲食)

■ 生産活動 「持ち直しに向けた動きに一服感がみられる」

化学は、大宗を占める医薬品で、緩やかに回復している。電子部品・デバイスは、スマートフォン向けや自動車向けで持ち直しに向けた動きに一服感がみられるほか、家電向けが弱まっていることなどから、全体では弱含んでいる。生産用機械は、繊維機械が緩やかに持ち直しつつあるものの、半導体製造装置で持ち直しの動きに一服感がみられるほか、金属加工機械が弱含んでいることなどから、全体では弱含んでいる。金属製品は、大宗を占めるアルミ建材で、ビル用に持ち直しの動きがみられるものの、住宅用が減少していることから、全体では弱含んでいる。繊維は、衣料向けが弱含んでいるものの、非衣料向けが持ち直しつつあることから、全体では緩やかに持ち直しつつある。

- 抗菌薬の供給が全国的に不足しているなか、感染症の流行により工場の稼働率を計画比 120%程度まで引き上げている。(化学)
- スマホ向けは、中華圏メーカー向けは引き続き低調だが、北米メーカー向けは新モデルの立ち上げに向けて在庫を積み増しており、堅調に推移する見通し。(電子部品・デバイス)
- 金属加工機械は、欧州や国内の設備投資は動きが鈍いが、北米向けの受注が伸びており、4月から稼働率を上げていく見込み。(生産用機械)
- 住宅用は、新築需要が低迷しているほか、従来のアルミサッシから複合サッシや樹脂サッシへのシフトが進んでおり、アルミ建材の生産量は減少している。(金属製品)
- 物価高の中、家計では衣類への支出が削られており、アパレルからの受注が減少傾向にある。(繊維)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、上昇している。新規求人数、新規求職者数ともに前年を下回っている。雇用保険受給者実人員は前年を下回っている。

- 店舗スタッフの人手不足感はあるが、賃金が上昇したことで以前より人件費がかかるようになったため、十分な人数の募集をかけることができない。(小売)
- 人手不足で週末は80%程度に客室を制限している。短時間勤務や柔軟な休暇の取得を認めてなんとか人手をつなぎとめている。(旅館)
- デジタル人材など専門スタッフが不足しており、転職エージェントを利用して、年間を通して中途採用の募集をしている。(金属製品)
- 人手不足を補うため、生産工程の合理化を進めており、ラインの一部工程をロボットが全自動で行うための省人化投資を行っている。(電子部品)
- 奥能登では過疎化が進んでいたなか、地震により若者を中心に人手が流出したことで求職者がさらに減少しており、人手不足感が強まっている。(人材派遣)

■ 設備投資 「6年度は増加見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年1-3月期

- 製造業では、はん用機械器具などが減少となるものの、情報通信機械器具、自動車・同附属品などが増加となることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、小売などが増加となるものの、運輸・郵便、金融・保険などが減少となることから、全体では減少見込みとなっている。

- 半導体増産のための新工場建設などにより、増加見込み。(情報通信機械器具)
- 新製品向け設備の新設により、増加見込み。(自動車・同附属品)
- 前年度の営業区間拡大に伴う大規模投資の反動により、減少見込み。(運輸・郵便)

■ 企業収益 「6年度は増益見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年1-3月期

- 製造業では、はん用機械器具などが増益となるものの、電気機械器具、化学工業などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、情報通信が減益となるものの、学術研究、専門・技術サービス、小売などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年1-3月期

- 企業の景況判断 BSI は、製造業、非製造業ともに「下降」超となっている。なお、先行きは、全産業では7年4-6月期は「下降」超、7年7-9月期は「上昇」超となる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「緩やかに持ち直しつつある」

- 新設住宅着工戸数でみると、緩やかに持ち直しつつある。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

- 前払金保証請負金額でみると、前年を上回っている。

■ 金融機関の貸出金 「前年を上回っている」

- 金融機関の貸出金は、前年を上回っている。

■ 企業倒産 「前年並みとなっている」

- 負債総額は前年を上回っているものの、件数は前年並みとなっている。

■ 消費者物価 (金沢市、生鮮食品を除く総合) 「前年を上回っている」

- 消費者物価指数でみると、前年を上回っている。

3. 各県の総括判断

	前回 (7年1月判断)	今回 (7年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
石川県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつあり、生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
富山県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつあり、生産活動は、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、足踏みの状況にある。
福井県	北陸新幹線の県内開業効果が引き続きみられるなか、緩やかに回復しつつある	北陸新幹線の県内開業効果が引き続きみられるなか、緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、北陸新幹線の県内開業効果が引き続きみられるなか、回復しつつあり、生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。